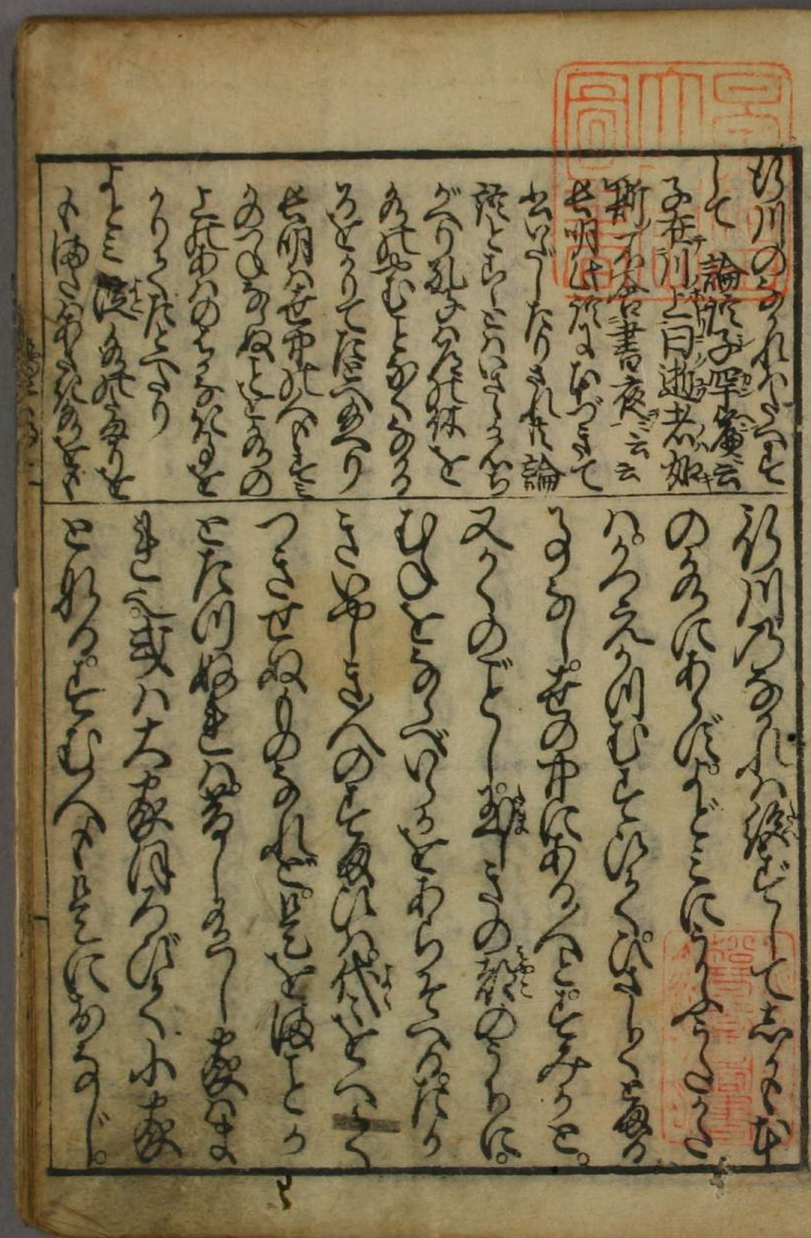
KODAK Color Control Patches ©The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

利10
門
1614
巻
1



宮内省図書寮

いとうたてしくもあるかな
とかくて我家のうちせいと
みさうさうあいのまと
らちとびくうさうあるとぶり
いくくも泡のとうり
わこそ世の中めてるる
らにあさいのうとは
金剛経夢幻泡影如
露亦如電と流るう
ものーさ　むあのうや
みとうあづりのうあ
りうきなりとり
いちろうくのとこか
ふ義ーあ人のもあ
いりうこせなたてり

あもとうてびくあるれどあ
みーしんの二三十人の中にどのうにい
とりふうりおなる元ーかよむまう
ふるうのびでのれ泡よにうりびっ
ってむまれたねうんなかうう来
ってくりうへうきびたうびりの
ってやりうるんなーなふう
てう月とうろこびむうそのあうで
とーしうみとびうとあうそのたうあ
いそでねびれの義よとうあうとあ
うるんあ義あううれおまうりぬうと

こせねうりのうとうのなる
ってくんとなてうるね
きんのーあうーあなま
れうりうやうあうあ
来のとうなる
むうまうーいあんれう
源川百そうみも
芳みーいりかきんあれは
ってうありのうとこれのうせ
ふうこうりんのうこんこ
中にうりくるこんこ
柏尾易詩云ニ十年
来旧詩巻十人酬和
九人云
あたうのんーうるんまう
ふるうんの荘子曰朝菌

いへううう紅月ふれぬ或ハ紅ハうがと
て鄭ハ紅ハうで紅ばとのへたタどまの月
とうれのんをたれりーうり写
あまりれを秋と送うるたをのれい
義をんるふとやたんくたうりぬう
あうえこ手写月ハ有うこよ風んびー
くくうりくるうぐりーれ成のと
こばうりれのうこうり火出まくく成
あれいうそこにハ朱蕉はう拾ぬうう
家ぬ紅有まくくうりて一れうれに
原とあゆさやんい拾に蕉ゆ紅うと

不知晦朔注云朝菌
大芝也亦名日及菌
生日旨則死もしくは
晦朔注よりて也
中代之人ハ名別へ
荘子の人名別へ
如文代注とありてん
とりつくいふとつの文
注なり
あるものの池よりきた
る　あるものとはたれ
たりとしらずとあり
むさびなるこれなり
の一体なり
ちくぶ死ぬるへのことなり
佛書云先生又先生

やあくとやどせうりやうり空ハ
うんぬ吹まうり風よりくうりの行程
あのさとひろびろくとひろびろ
さはさはとあ煙りむとびらとさあうりハ
一向ものの風とゆよ吹つけうりまハ所
と吹たくうれる火は光に映じてやはね
くるのの中に風よ流ぶ
とぶぶくとくとくこ所と雑川極行ぶ
中の人りいんんや或ハ煙りむせびく
たれかりぶハ人ふまうまてぬらはう
みぬぬぬハ又ものよ第一ぶうとのれ

都不知生生前来
世猶求世全無辨
世世終云云
とうのやどり　木李大白
春夜宴桃李園序
曰夫天地者萬物之
逆旅光陰者百代之
過客而浮生若夢
そのうきとしてみいとせた
とのうそのを拾いいで
紅ぐいの紅ふとうの
いくでとりぬとへとと
いうんさたの春ふ
梅ハあのまてひくハこ

たまたま資財をとり集めて後ハ
万家ぐらいの所と
いへのくそぐぐぐぐぐぐ
燒うりぽりてこ永ハぐてちぐぐぐく
紅ぐちこ分ぐ一ようぐりこぐ四月安紀
ぬうりの殺の人ぐ年のおひ名陽と
こぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ中は
こもあうう紀京中のあと作ことよ
家ぐと費ーんと燒まりとうかとぐれ
てわちこさりぐぐぐぐぐぐ
年の月十の首のころ中ハ京極の

とびとりとてそのあるあるみあるといであれくのうさきねさたんごくー
わるい嘉をあるでにあるくそれと後乱あるたるさるとらのんいあるでんあるまれぬまれあいぬあるまるまあるのこれるうとこれるまるあるあるいるとるてるでまるのるいるとるるれるれるるるれるるこれれれれあるるのこれるこまるるる

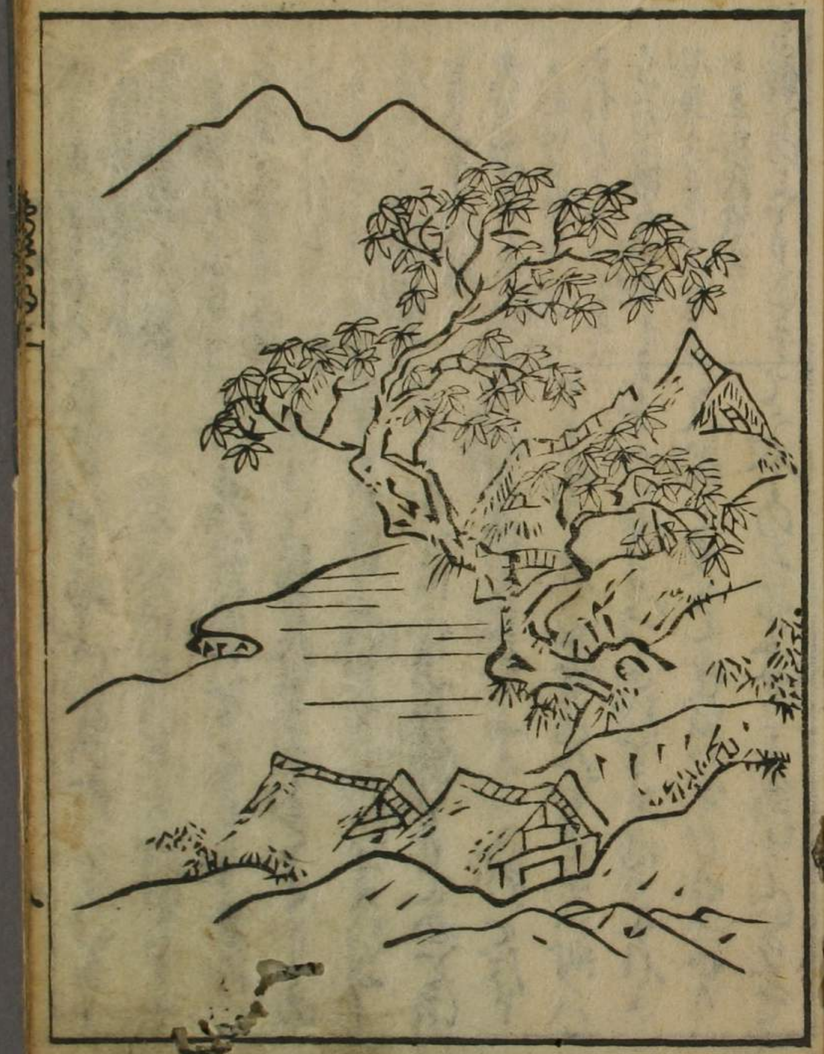
也此年治承ト開元
[illegible]　即樋口富
小路
朱雀　拾芥云長安
南面皇城門是謂朱
雀
大極殿　同云朝堂院
正殿名云八省院是
又謂之取大殿天子臨
朝即位謂司告朝
或云號朝堂院
大學寮　紫壬生横二
條西南角也　縱西洞院
民部省　春日東北角也
一[illegible]

阿房官賊 楚人一炬可憐焦土

樋口富小路　極に富む

小流を手にあまるあれど
とあるふたりこうゆ
出来さいへまいて宗
蔵小流ありべ極に
ハ水際の下に小流へ
とくくりゆくなどと
ありくなりあるさ
くりゆくこと
在のかハ用ハ本業
ばくくくとありく
ありく
肝して　くりくくと
くくんやくくも

ハこの在氏ハいせ
まどさこもの
ありくくと
かくくく　幸ばくくと
くくくめくくくくり
くくくり
七拾万貫　くくくも
くくくくく



左傳是何祥也

僖公十六年

三年十月三月の比京
三月里ゝ隕ち星
星ふる夷て又定暦すこ
ゑナ一月ゝ三日也星
京ゝりゝ星夷ゝく
帝五八ゝ二代聖武八
三百八十年ゝ秋
と送ゝれゝゝ来

車と用ふるところの人のこれ孔子のいはせのたまふさまにて作は作なり述は述なり
て世にすぐるなりこうらうらうらうべ
らうありてらうつるものたり
ありて　七月こ
ゆうらいつ
月の九夜　あさうけ
いたるこの月九夜
筵式ふるこの月九夜
筵式ふるこの月九夜
筵式ふるこの月九夜
月の九夜　月の九夜
乃月の月夜ふるこ

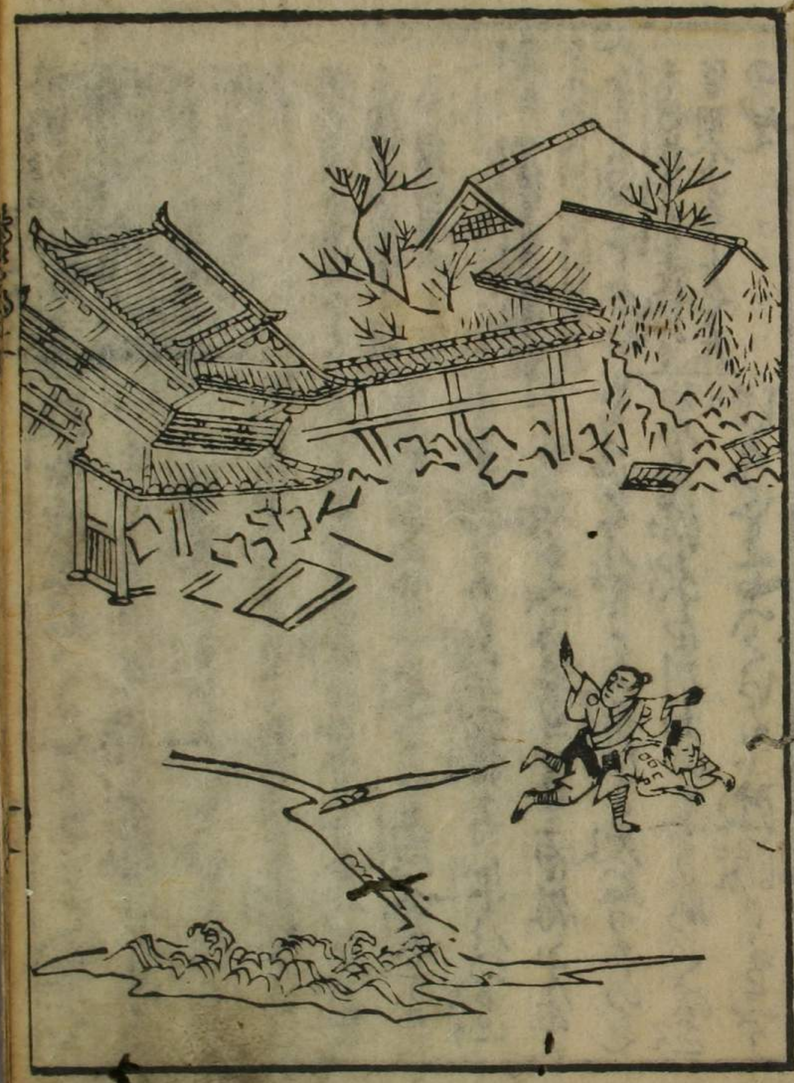
のんらもあさ海ばの松つのよりの
うぐりられ四年の冬の行ばあり
ひりうへのみたれごこがちうるせ
ふるこのうらうらうくりの
ふるこのうらうらうくりの
ふるこのうらうらうくりの

京のおらいのふくにてはくとみるとハ西全をとこそたのめるゑ俗らのぞろ
めのみれがさとこゆうんさわとぼゆわ
ん志ゝ使て窮西ゝうゝ
どくゝとれ井ぞこに用ゝて刑ゝ人ゝ
まくゝふゝりのハ今とを怪ゝ
とそ食ゝのべよゝ多ゝ
耳にてゝりぞ人の辛ゝ
蕎ぬ泊ゝ手ゝたゝらゝとゝ
ゝもわゝゝくゝゝ
に流ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



つゝ行ふ
源氏物語 論語 讀ム如我
浮雲 ちまの狩 くを
ぬるべきつらのれくあ
とゝつべきまとゞ
きまり
車ふのつべきらるたり
衣冠布衣のつくと宣
者とゝまり 結まの
狩とゝまりのまゝ
ゆゝへのうちられ代
史記秦本紀韓子自
堯舜采椽不剪茅
茨不剪飯土塯啜土
形六韜帝堯王天下
之時金銀珠玉不飾
ゆりこゝわれあるゆゝこゝ
女男ゝ拾ゝ
てゝゝゝ
とゝゝ
きゝゝ
ゝゝ
りのゝ
死ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
和寺ゝ

錦繡文綺不衣守帳
珍異不櫝玩好之器
寶高佚之樂不聽宮
垣屋室不室麓楠椽
楹不劃茅茨偏庭不
敷
[illegible]

養和 安徳天皇年号也
京の名所ふしけくと
みなもとの四位とのの
米穀校木薪炭修
皆四今ようとの
のもの

十二

[illegible]
[illegible]
[illegible]

過於是

仁和寺隆暁法印 未考

阿字 八識田中下阿字

一切生死涅槃平等

又曰阿字本不生新羅國靈妙寺僧不可思議釋曰秘密中秘釋者阿字自性本不生

元暦 後鳥羽院年号

荘子胠篋篇天川竭而谷虛丘夷而淵實虛

ちかごろ地震ばかりつゞきこれ
ゆゑなきにあらずとてくゆこと
にたり　地震ばかりにあらず
齊衡　文徳天皇年號
也此地震齊衡二年
五月五月也同三年
三月大地震也
東大寺　大和国也聖武
天皇神龜五年始造
之七大寺一也七大寺
東大寺　興福寺　元興
寺　大安寺　藥師寺
西大寺　法隆寺也
あらかたのさゝやのでい
さゝんのふることも

ちかごろ地震ばかりつゞきこれ
ゆゑなきにあらずとてくゆこと
にたり　地震ばかりにあらず
齊衡　文徳天皇年號
也此地震齊衡二年
五月五月也同三年
三月大地震也
東大寺　大和国也聖武
天皇神龜五年始造
之七大寺一也七大寺
東大寺　興福寺　元興
寺　大安寺　藥師寺
西大寺　法隆寺也
あらかたのさゝやのでい
さゝんのふることも

仏々よりひとへにこれをくゐりとこそよのつねのことをもそこうはなはだよろこばれたまへるのこころをもはしれとみてもしんのほどりをもくみふかきこころをもくみてよのびまいりのつよありつるをはなはだよろこばれたまへるありとて

別人にもあらぬあづさゆみをもてあそびたまへるこころのはなはだ狂ほしかりしかとも月日をすごしてとしをへぬれとこの弓をもてあそびたまへるこころをくみてしばらくなのりをしたまへとも拒たまへるこころをくみてしいてとのたまはせすはあるへからぬことなりとてかの弓をとりてかの弓をもてあそびた

論語曰聖人富堯曰論語使聖人多男子堯曰辭封人曰壽富多男子人之所欲也汝独不欲何邪堯曰多男子則多懼富則多憂壽則多辱是三者非所養德也

白波の思ひ　ねたくの美名とそうのことのはれ川迫るゑんなそのんをもてわらうきもり

風吹いるきの白波ふかるゑ
東ますみるくひとりゆらん
あとか　公長くしたに有
三義怖魔破悪七士

よとそろ海ぞ唐とのごくことのしんぢよあまこび程文ごくへあるく道祖の郎ことの山ぎ〜ぴとうみるうめぐよか貪欲ゆくぴとうみるうめぐよか

るゆめるぞ。富あれがかそれるるくま

けーこれハ欲ゆこぐとなめぐみ化

乃度川ことそうくとこくあいぐん

ちもよつろぞにそこぐぶみる。

みちこぐ〇ば程くろにゆうぞいま

のこうとこあぐうあうこぐまとて。

ちぐしとゆるとやぐーぞゆえんと

出家離生死乗於魔意故魔見而名称魔又出家破身口七支之惡故云破惡乞士謂上於諸佛乞法下於衆生乞食也

[illegible]

[illegible]集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

荘子曰 獲
蛇不知春秋

言葉あつれむ　われむ
とりつ三義あり
しむとは一義まき
愛とは一義
あり
たゝ代序よりとも
とあれとも
と同じ
ちくとはうつ
ちくとはうまで
あり
とうとり
この俳の句虎　恵人

おもひのとゝ　ぶらぶらとたけ
ぐとはけうりんようみたぬ
らばやてくの
道ろ河いくぐくの
くと二義
用をいくべ
弘とくてて
出くゝ行人
雨の棚を
てゝ
く

俳諧の言葉　恵人

俳諧のこゝろは和歌
俳諧のこゝろは
とゝ
人院より
とうとう　小童の
蒲柳言葉

五の中に俳諧
ゝゝゆく
と
んよそ
ひむ
るの
と

俳諧のこゝろは和歌
俳諧のこゝろは
係とは
さたとは
合俳
の集と
筆
ゆうり
そへ
あけく
俳の

潯陽の江頭夜送客楓葉荻花秋瑟瑟
白居易

孟子曰我善養吾浩然之氣

人丸

宮内

影向の里の月の影さやけし
たれかこの月に影をうつすらん
とせばかの月とかはらじ

[illegible]

[illegible]

勝地本来無定主人
大都山屋愛山人
朗詠みやまの自
影

又蘇東坡一のぼまの詩あり別にしるす

かたりてかたりてこゝにかきとゞめ

来りておもふ物の一つとしてくるふ

時にこれをあつうくあそびありく

うれいなき景色これを獨り

かのあれどぞんとをくさもるうれひなし

しかはれどもあらずとをもふ

又ねがはくとの形とつむぶかたちを

の風井まよりて庵樋とひろ絵

りぐことをたゝるひ日うらくるれ

景よりちりてかとふ庵のあ